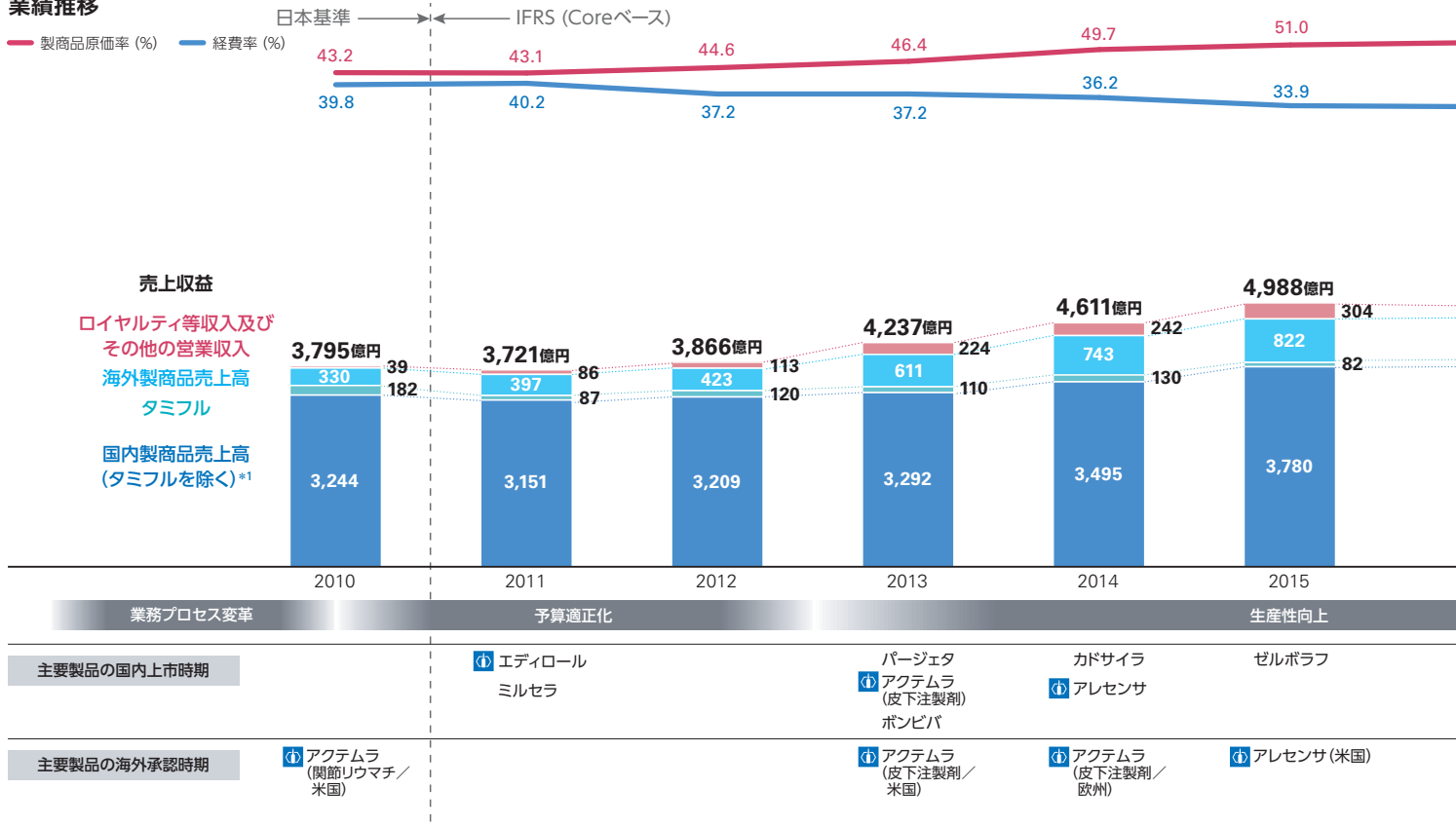


財務・プレ財務ハイライト 国際会計基準(IFRS)

中外製薬株式会社および連結子会社／12月31日に終了した各会計年度

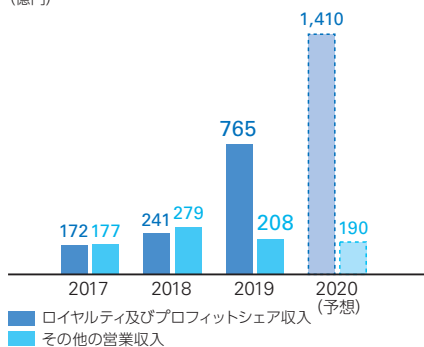
財務関連(Coreベース)

業績推移



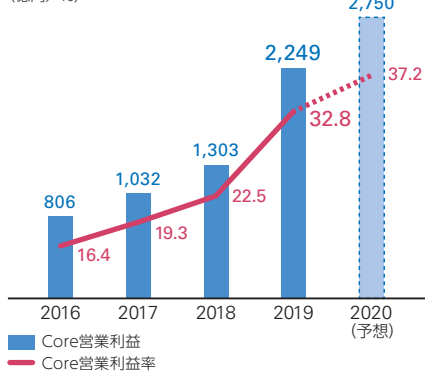
① 自社創製品 *1 2017年以降は、国内製商品売上高に「タミフル」を含む

ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入／その他の営業収入 (億円)



ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入は、自社創製品のロシュによる海外販売と連動しており、2019年は「ヘムライブラ」の好調なグローバル市場浸透により大幅に増加しました。その他の営業収入は、一時的な収入により構成され、2018年は長期収載品の譲渡による一時金収入を計上したことにより一時的に増加しました。

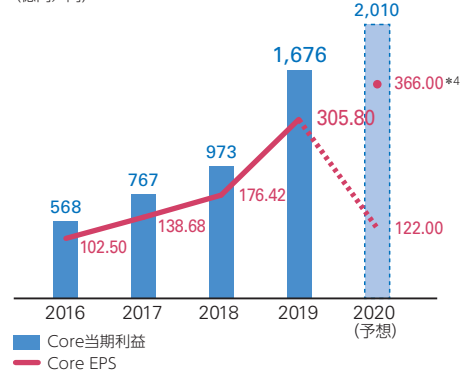
Core営業利益／Core営業利益率 (億円／%)



Core 営業利益率は、低水準の経費率をベースに一貫して高水準にあり、近年はROOI*2の増加や製商品原価率の低下に伴い、より一層の上昇が見られます。2020年のCore 営業利益は、自社創製品「ヘムライブラ」に関するロシュからのロイヤルティ収入の増加などにより、4年連続の最高益更新を見込んでいます。

*2 ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入

Core当期利益／Core EPS (億円／円)



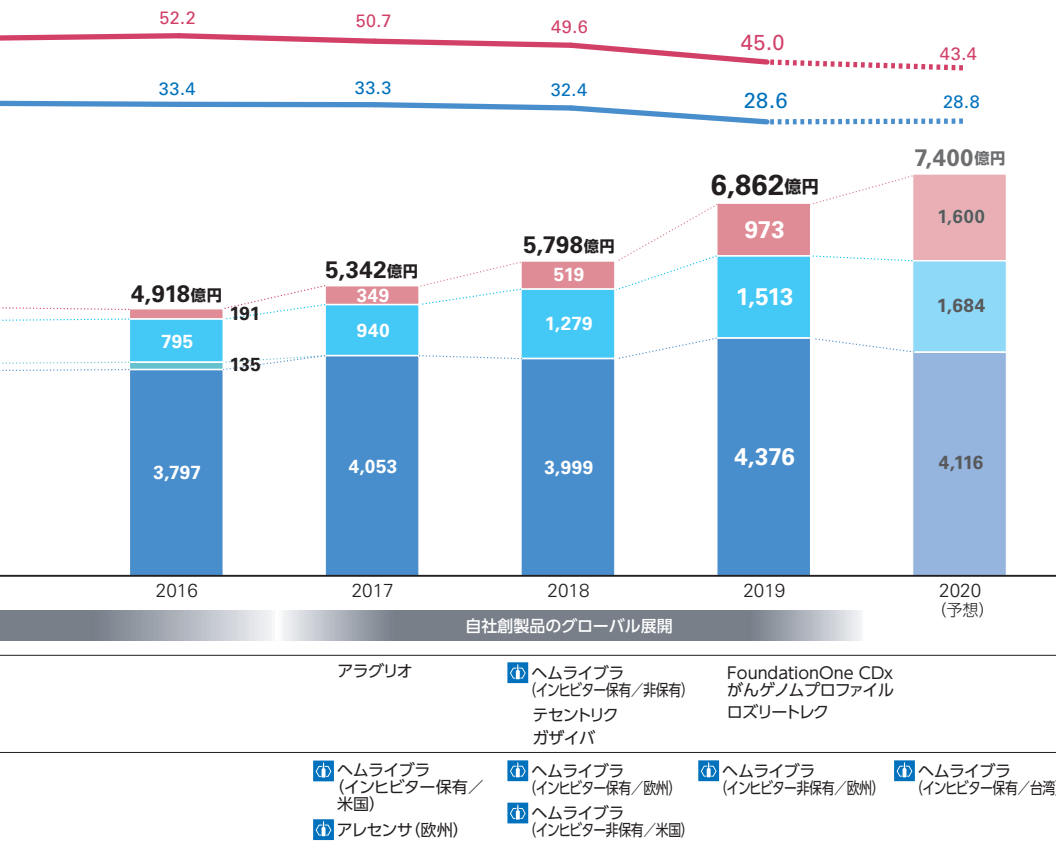
中期経営計画IBI 21では、3年間でのCore EPS年平均成長率を指標として掲げています。当指標の目標水準について、自社創製グローバル品の好調などを背景とした初年度の好業績を踏まえ、中計策定当初に掲げた「High single digit(一桁台後半*)」を「30%前後*3(株式分割を考慮しない場合)」に上方修正しました。

*3 3年間、一定為替レートベース

*4 株式分割を考慮しない場合。当社は、2020年7月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行います

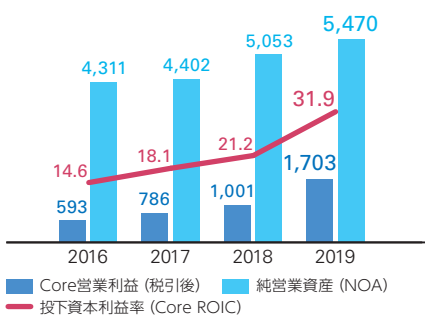
Coreベースでの実績について

IFRS (国際会計基準)への移行を機に、2013年よりCoreベースでの実績を開示しています。Coreベースでの実績とは、IFRSベースでの実績に中外製薬が非経常事項ととらえる事項の調整を行ったもので、ロシユが開示するCoreベースでの実績の概念とも整合しています。中外製薬では、Coreベースでの実績を社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、ならびに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しています。なお、資産負債およびキャッシュ・フローの推移にはCoreベースでの実績のような除外事項はありません。



中外製薬は、戦略的アライアンスを締結しているロシユからの導入品増加に伴う製商品原価率の上昇を踏まえ、コスト構造を大幅に改善してきました。現在では、世界の大手製薬会社と遜色ないレベルの経費率を継続的に達成しており、高い収益性を確保しています。近年は、ロシユ導入品よりも原価率の低い自社創製グローバル品が好調に推移したことにより、製商品原価率も着実に低下しています。売上収益は、国内の主力品や新製品「ヘムライブラ」「テセントリク」の好調な売上に加え、自社創製品「アクテムラ」「アレセンサ」のロシユ向け輸出、「ヘムライブラ」に関するロイヤリティ及びプロフィットシェア収入の増加などにより、3年連続で過去最高を達成しました。2020年は、薬価改定や後発品発売に伴う競争激化により国内製商品売上高が前年を下回るものの、「ヘムライブラ」のロシユ向け輸出やロシユからのロイヤリティ収入の増加がこれを上回り、増収増益を想定しています。

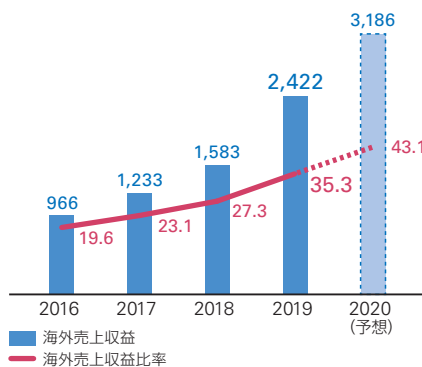
Core営業利益 (税引後) / 純営業資産 (NOA) / 投下資本利益率 (Core ROIC) (億円/%)



長期的な投資効率を意識した計量マネジメントのため、2019年から長期の財務KPIとしてCore ROIC*5を採用。中外ライフサイエンスパーク横浜などの戦略投資の積極的な実施により純営業資産 (NOA) (②) が大きく増加する一方、Core 営業利益 (税引後) (①) の成長により、Core ROIC (①/②) は右肩上がりで上昇しています。

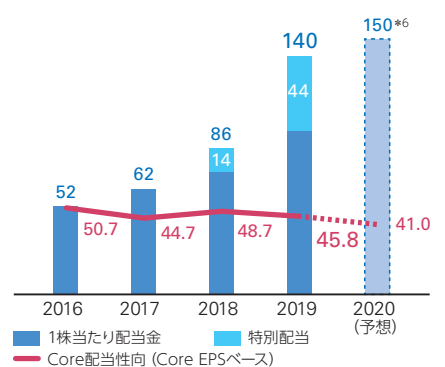
*5 投下資本利益率 (Return On Invested Capital)。事業活動のために投じた資金 (投下資本) を使って、企業がどれだけ効率的に利益に結びつけているかを知ることができる

海外売上収益 / 海外売上収益比率 (億円/%)



自社創製グローバル品の成長に伴い、海外の売上収益は着実に増加。「アクテムラ」の成熟化を見込む一方で、発売3年目で世界売上10億スイスフランを突破した「ヘムライブラ」、欧州での市場浸透が続く「アレセンサ」、2020年に発売見込みの「サトラリズム」など、今後も海外売上収益比率は上昇する見込みです。

1株当たり配当金 / Core配当性向 (円/%)

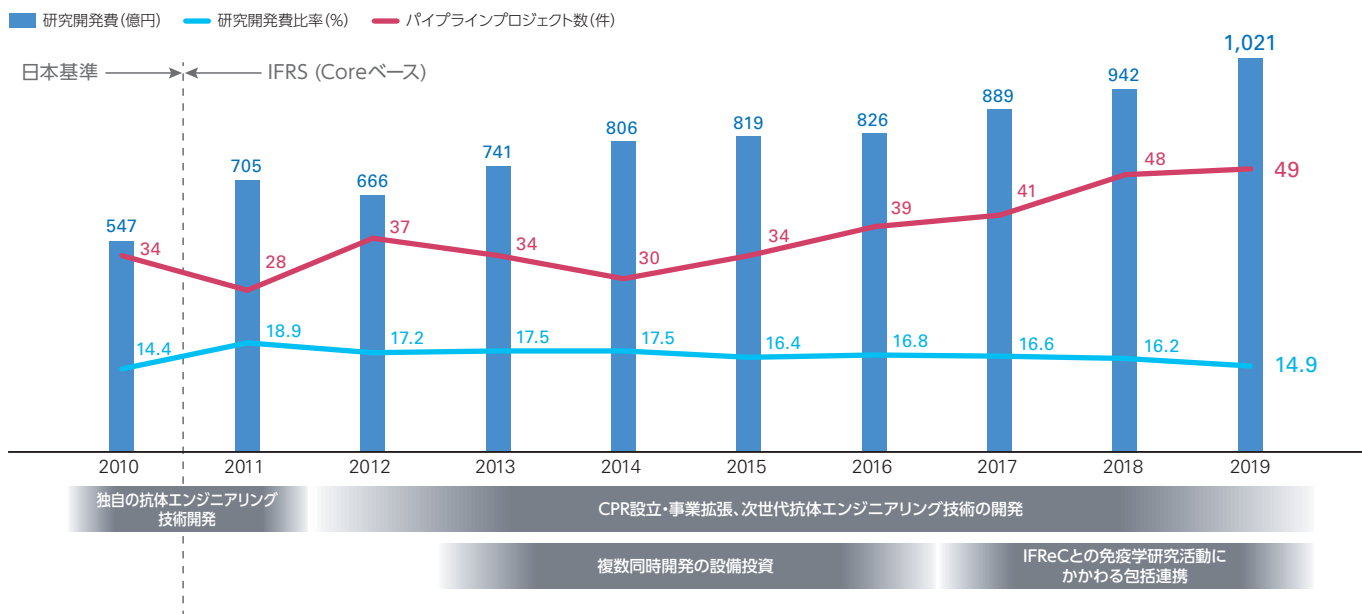


株主還元については、Core EPS対比の配当性向で平均して50%を目処としていましたが、将来の投資機会や資金調達計画を考慮した結果、今後も安定的な配当政策を維持するため、2020年よりCore EPS対比の配当性向の目処を「平均して45%」に変更しました。

*6 株式分割を考慮しない場合

研究・臨床開発・製薬関連

研究開発費／研究開発費比率／パイプラインプロジェクト数

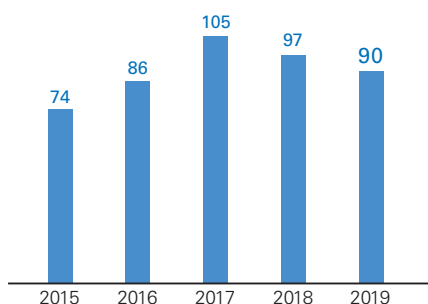


中外製薬は、売上規模の拡大につれて研究開発投資を増やし、革新的な医薬品を継続的に生み出すとともに、世界の医療・製薬業界の発展にも貢献しうる研究成果の創出につなげています。競合環境を踏まえたスピーディな研究開発や、将来の競争力獲得・強化に向けたAIなどデジタルへの先行投資も積極的に行う一方で、経費全体としては、原則として売上収益の伸び率の範囲内に抑える方針としています。

ロシュとの戦略的アライアンスのもと、早期臨床試験の結果を踏まえてロシュ品の導入を検討・判断できるなど、ロシュとの協働により効率的で成功確率の高い新薬開発を進めてきました。近年は、革新的な抗体医薬品の創製を加速するために事業拡張した中外ファーマボディ・リサーチ(CPR)*1における創製品を含め、複数の自社品が臨床フェーズ入りしており、潤沢なパイプライン数を維持しています。

*1 2012年にシンガポールに設立

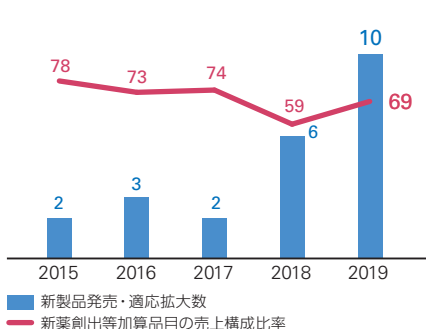
研究実績に関する論文・学会発表数*2 (件)



独自の創薬技術を継続的に確立して開発品に適用するとともに、高品質・高付加価値を支える工業化研究を推進することで、競合と差別化できる革新的な医薬品を開発しています。医療全体の発展にも貢献しうる研究成果を引き続き創出し、学会発表や論文投稿を行っていきます。

*2 創薬・製薬関連の合計

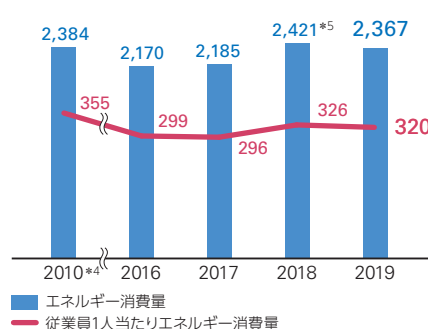
新製品発売・適応拡大数／新薬創出等加算品目の売上構成比率 (件/%)



2019年は、F1CDx*3、「ロズリートレク」の発売、がん領域の主力品である「テセントリク」、そして「アクテムラ」の適応拡大、F1CDxのコンパニオン診断の品目数追加により、新製品発売・適応拡大数は前年を上回りました。ロシュ品の効率的な国内市場への導入による安定的な収益基盤のもと、引き続き革新的な医薬品の創製に注力していきます。

*3 FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル
注：市場拡大再算定の対象となった品目(2016、2017年：アバスタチン)については、当該年度で新薬創出等加算の対象品の要件を満たしていたため、新薬創出等加算品目としてカウントしていません

エネルギー消費量／従業員1人当たりエネルギー消費量 (1,000 GJ/GJ/人)

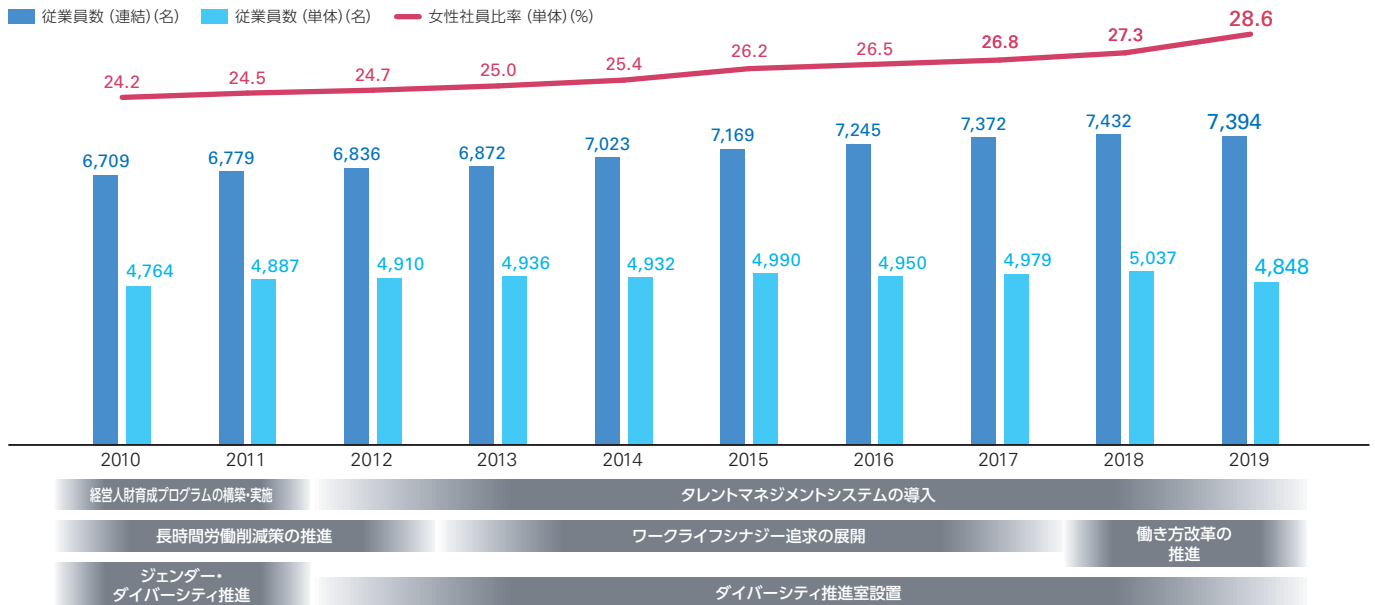


2019年のエネルギー消費量は、「エネルギー見える化省エネプロジェクト」などの推進により、対前年比2.3%減でした。新薬の生産体制を拡充していく一方、「地球環境への配慮」という価値観に基づき、エネルギー消費量削減などに取り組んでいきます。

*4 中期環境目標の基準年
*5 海外消費量40(1,000 GJ)を含む

人財マネジメント関連

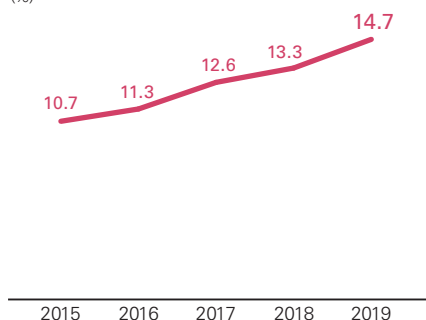
従業員数／女性社員比率



中外製薬では、人事戦略の基本理念として「人財こそが企業の成長・発展を生み出すかけがえのない資産」であると考え、性別や国籍を問わず多様な人財の獲得・育成・活用を進めることを基本方針としています。世界の患者さんへ革新的な医薬品を届けるために、当社では、イノベーションや創造性の追求に価値を置いており、「多様な価値観や専門性から革新は

生み出される」ことを共通認識として、ダイバーシティ&インクルージョンを人事戦略の一つとして取り組んでいます。今後も、多様な社員一人ひとりが持つ能力を、最大限発揮できる環境整備とイノベーションを生み出す風土醸成に取り組んでいきます。

女性管理職比率*6 (単体)



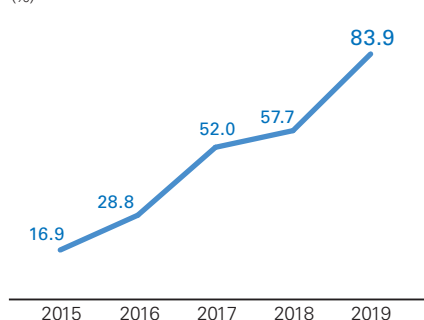
女性活躍推進に向けた数値目標として、2021年末に女性管理職比率16%以上(単体在籍ベース*7)と設定しました。女性管理職比率は上昇傾向にあります。さらなる女性活躍推進を目指し、女性のキャリア形成に向けた施策を展開し、女性リーダーの育成を一層加速させていきます。

注：女性管理職比率(単体在籍ベース)
2018年12.6% 2019年13.7%

*6 管理職に占める比率

*7 中外製薬株式会社(単体)の在籍者(関係会社および外部への出向者を含む)に基づいて算出。一方単体ベースは有価証券報告書の定義に基づいて算出しています。

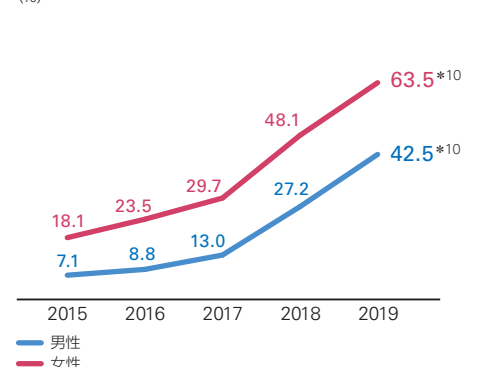
男性の育児休職取得率*8 (単体)



ワークライフシナジーの推進に向け、働き方の柔軟性と生産性の向上を目指しています。男性の育児休職取得者も増えており、子どもが生まれた男性社員とその上司に、育児休職取得の啓発活動を進め上司向けハンドブックにマネジメントのポイントを紹介することで、取得の推進を図っています。

*8 子どもが生まれた男性社員に占める比率

在宅勤務制度利用率*9 (単体)

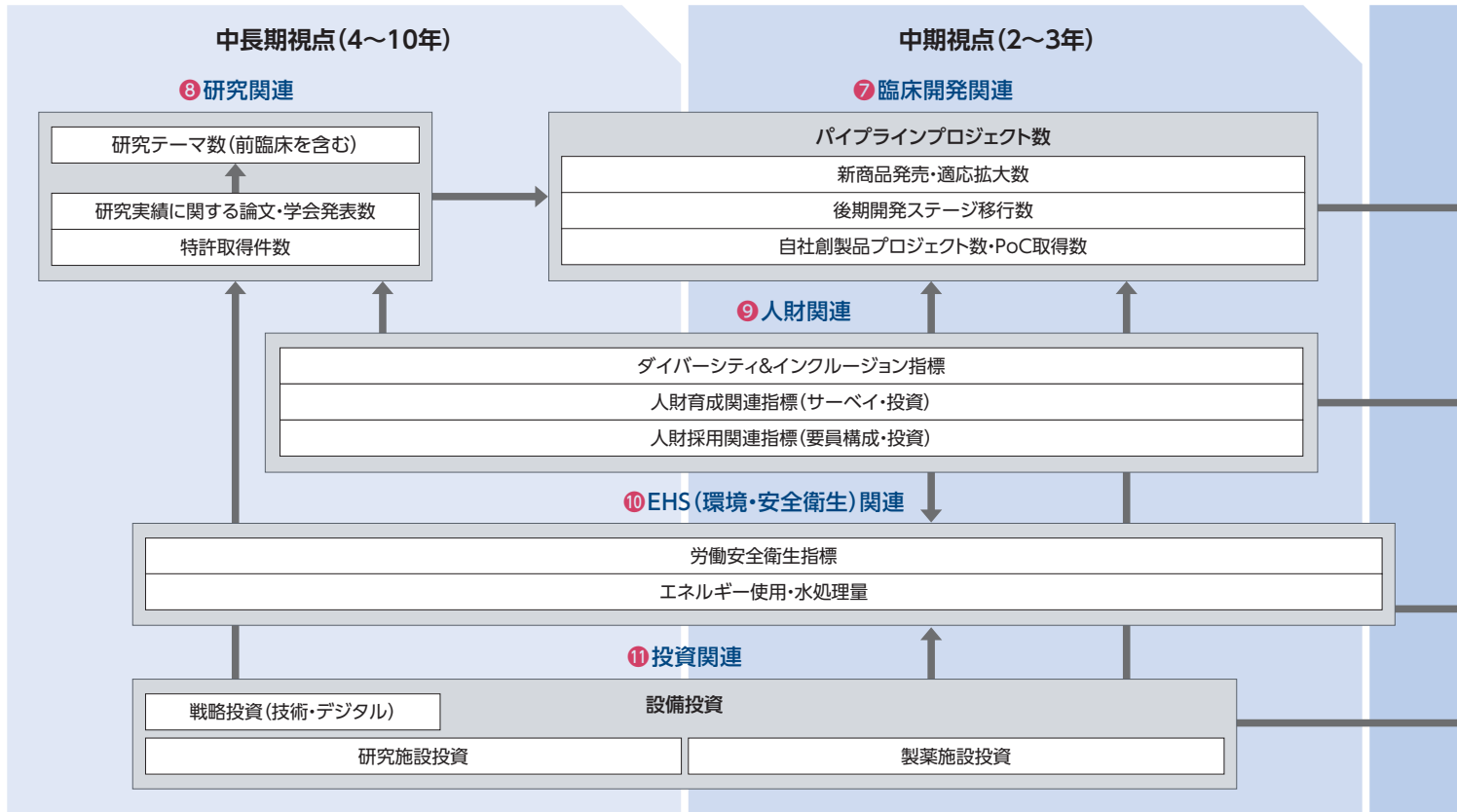


2012年に育児・介護などを対象として導入した在宅勤務制度を、現在は生産性向上にまで利用目的を広げています。2019年には15分単位での利用を可能にし、活用の柔軟性を高め、また、対象者をMR等の外勤者にも広げました。今後も、より柔軟な働き方が実現できるように取り組んでいきます。

*9 制度利用対象者に占める比率

*10 MR等外勤者を除く場合

指標の関係性



財務成果

当社は、ビジネスモデルの特性を踏まえ、「Core EPS成長率」と資本コスト/ストック視点での「Core ROIC」の2つを特に重要な財務KPIと考え、これらが高めることは、中長期的な企業価値の向上につながるものととらえています。

① IBI 21 ガイダンス

中外製薬の企業価値向上に向けた指標としては、本業における売上高利益率（マージン）およびその絶対額の成長が最も重要です。そのため、中期経営計画IBI 21では、これらを株主目線で示したKPIとしてCore EPS成長率をガイダンスとして採用しています。これは「③成長性指標」と「④収益性指標」と関連づけられます。

② 社内管理指標

中外製薬では、各部門のパフォーマンス管理に、フローだけでなくストックの観点も重要との考えから、Core ROICを使用しています。Core ROICは、「④収益性指標」および「⑤効率性指標」から構成されます。

③ 成長性指標

成長性指標は、中外製薬のグローバルにおける製品・サービスの貢献価値を測定する一つの指標です。売上収益全体だけでなく、新規性のある製品や、自社創製品の海外売上高およびロイヤルティ収入なども、今後の成長に向けて重視しています。

④ 収益性指標

中外製薬のCore EPSの向上には、営業利益額や営業利益率が最も大きな影響を与えます。自社創製品の比率によって変化す

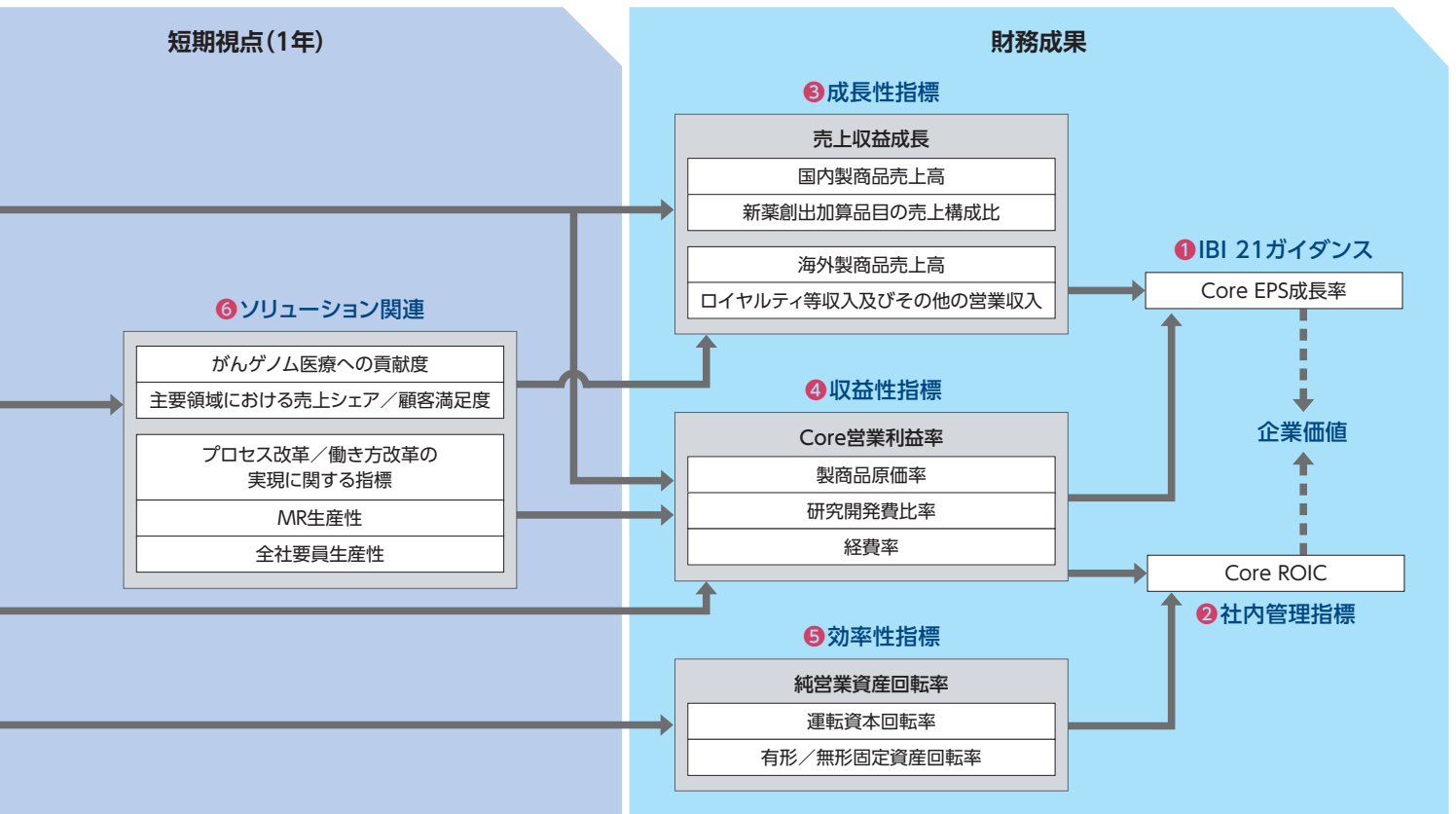
る製商品原価率、研究テーマの進展や技術開発によって増減する研究開発費は利益に影響します。経費率は、コスト構造の見直しや生産性の向上などにより、継続的な改善を目指す指標です。

⑤ 効率性指標

中外製薬が強みとするバイオ医薬品の製造期間が比較的長いことから、医薬品の供給責任を果たすためにターンオーバーの向上には一定の制約がありますが、資本効率性の改善には不可欠な指標として、運転資本および固定資産の回転率を重点的にマネジメントしています。

活動指標(短期/中期/中長期視点)

企業価値向上および財務指標に影響をもたらす活動指標は、そのカテゴリーと時間軸で



大別されます。短期視点(1年)、中期視点(2～3年)、中長期視点(4～10年)で成果を生む活動指標としては、主に以下⑥～⑪があります。

⑥ ソリューション関連

短期視点(1年)で成果を生む活動指標として、戦略の完遂に向けモニタリングしています。なかでも主要領域における売上シェア、生産性にかかわる指標は「③成長性指標」と「④収益性指標」および「⑤効率性指標」に関連する重要な指標ととらえています。

⑦ 臨床開発関連

創薬難易度の高まる昨今においては、開発パイプラインプロジェクトの充実度が中期/中長期的な視点で売上・利益を大きく左右し、企業価値の創出を決定づけます。中外製薬はプロジェクト数だけでなく、その質や進捗状況を重点的に管理しています。

⑧ 研究関連

新薬メーカーの場合、研究テーマの成果が業績に現れるのは通常4～10年後であり、技術基盤や病態研究などでは、これより長い時間軸でマネジメントしていくこともあります。定量的に管理している主たる指標としては研究テーマ数などですが、研究成果については、論文・学会発表数、特許取得件数なども測定指標の一つとなります。

⑨ 人財関連

中外製薬では、すべての成果は、人財の採用・配置・育成・組織風土などによって変わるとの強い信念があります。そのため、従業員意識調査や人財データベースをもとにした各種指標、人財投資額のほか、イノベーションを生み出す風土構築に向け、ダイバーシティ&インクルージョン関連指標について、詳細な目標を設定しています。

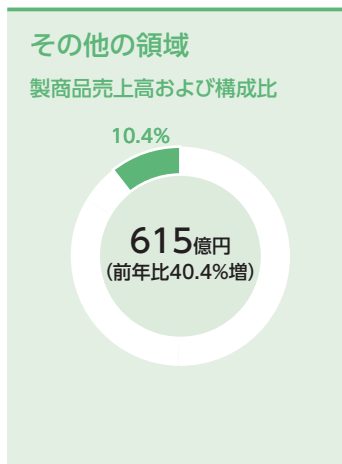
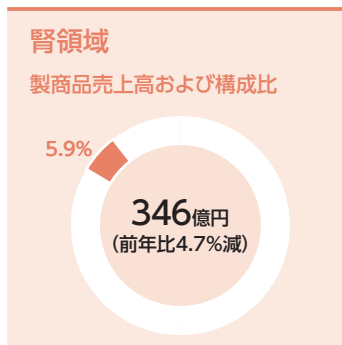
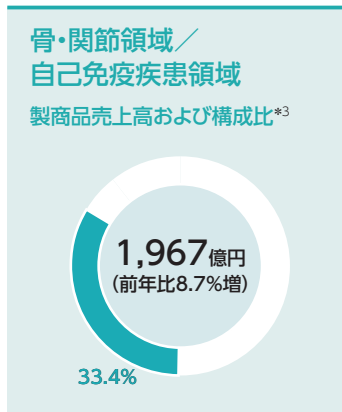
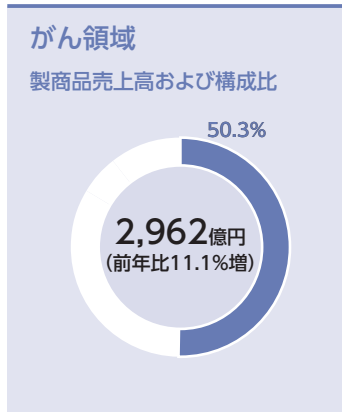
⑩ EHS(環境・安全衛生)関連

中外製薬では、環境と労働安全衛生を統合的にマネジメントしています。これらが抱えるリスクは多大で、中長期的な研究開発、製薬、マーケティングなどの成果に影響してきますが、特に生産にかかわる活動の影響が大きくなります。気候変動やエネルギー、水、健康経営、労働災害などに関する各指標をつぶさに管理しています。

⑪ 投資関連

新規創薬技術に対応した生産設備や、臨床開発活動と並行する治験薬製造設備など、戦略に合致した製薬面での投資は中期的な臨床開発や業績に影響してきます。研究基盤の拡充・研究効率の向上を目指した研究面での投資や、新規技術・デジタル関連の投資は、各バリューチェーンに影響しますが、その成果が現れるのは通常4年以上の中長期的なスパンになります。

領域別の概況



機会とリスク

機会

- がんはアンメットメディカルニーズ*1の代表疾患(日本人の死亡原因第1位)
- がん遺伝子パネル検査の保険償還などによる個別化医療のさらなる進展
- 第3期がん対策推進基本計画によるがんゲノム医療提供体制の推進

リスク

- 抗PD-1/抗PD-L1抗体をはじめとするがん免疫療法の世界的競争激化
- 主力品の新薬創出等加算の返還
- 大手製薬企業のバイオシミラー*2への参入

機会

- 関節リウマチは生物学的製剤の登場により治療効果が劇的に向上し、治療のゴールが寛解(症状のない状態)に
- 骨粗鬆症の患者数は高齢化とともに年々増加
- 骨粗鬆症における治療率と治療継続率が依然として低いため、潜在患者数が多い

リスク

- 関節リウマチ市場の世界的な競争激化
- 中長期的な「アクテムラ」の成熟化による成長鈍化
- 生物学的製剤に対するバイオシミラーの登場

機会

- 厚生労働省の慢性腎臓病(CKD)への取り組み強化による、潜在・未受診患者さんの受診率向上
- 潜在患者さんへの早期治療介入に伴う、腎性貧血治療率の向上
- 腎性貧血は透析期と保存期(透析前)に分けられ、保存期の治療患者さんは年々増加傾向

リスク

- 診療報酬改定に伴う血液透析の点数引き下げにより、透析市場の競争激化
- 競合するバイオセウムなど後発品による競争環境激化

機会

- インヒビターの発生や頻回投与による、血友病Aの方々および介護者の負担が課題
- 神経疾患領域は多岐にわたる病態・症候群があり、アンメットメディカルニーズが非常に高い
- 腎移植の推進にかかわる診療報酬加算で、国内腎移植医療のニーズが高まる
- アトピー性皮膚炎のかゆみは、皮膚炎の悪化に加え、睡眠を妨げることから患者さんのQOL向上が求められる

リスク

- 既知の標的分子が限られていることに起因する世界的な競争激化
- アンメットメディカルニーズが高い半面、対象となる患者数が少ない可能性

2019年の概況

国内は、主に後発品の影響を受けて、「リツキサン」などの売上が減少したものの、新製品「テセントリク」や主力品「パージェタ」の順調な市場浸透などにより、製商品売上高は2,405億円(前年比6.6%増)となりました。欧米を中心に第一選択薬として浸透が進む自社創製品「アレセンサ」のロシユ向け輸出が446億円(同54.3%増)と大幅に伸長するなど、海外も含めた製商品売上高は2,962億円(同11.1%増)となりました。

国内は、関節リウマチなどを適応症とする自社創製品「アクテムラ」や、同じく自社創製品である経口骨粗鬆症治療剤のトップブランド「エディオール」といった主力品の堅調な推移により、製商品売上高は1,084億円(同7.9%増)となりました。110カ国以上で承認され、ロシユを通じて販売されている「アクテムラ」の輸出は865億円(同9.9%増)と順調に推移し、海外も含めた製商品売上高は、1,967億円(同8.7%増)となりました。

国内は、薬価改定に加え、腎性貧血では競合するバイオセウム*4の影響などを受け、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「オキサロール」や持続型赤血球造血刺激因子製剤「ミルセラ」の売上が減少し、腎領域の製商品売上高は346億円(同4.7%減)となりました。

国内は、自社創製品の血友病A治療薬「ヘムライブラ」が、インヒビターを保有しない方に対して期初の想定を大きく上回って浸透した結果、売上は252億円(同740%増)となりました。抗インフルエンザウイルス剤「タミフル」の通常シーズン向けの売上は74億円(同26.7%減)、行政備蓄向けなどの売上は32億円(同540.0%増)でした。海外も含めた製商品売上高は615億円(同40.4%増)となり、そのうち「ヘムライブラ」のロシユ向け輸出は、33億円(同43.5%増)でした。

*1 いまだに有効な治療方法がなく、十分に満たされていない医療ニーズ *2 特許期間が満了したバイオ医薬品の後続品で、先発品と同等の品質や有効性・安全性を有する。先行バイオ医薬品の開発メーカーとは異なるメーカーにより製造される *3 骨・関節領域 *4 有効成分、製法などが先発品と同一で、包装のみが異なる後発バイオ医薬品

製商品売上高の推移

がん領域

国内売上シェア1位*5

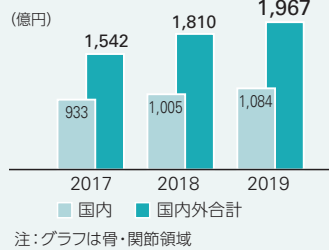


骨粗鬆症領域

国内売上シェア1位*5

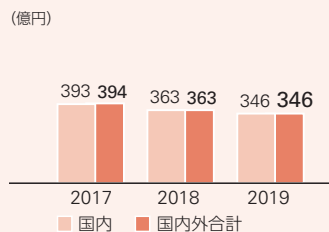
リウマチ領域

国内売上シェア2位*5

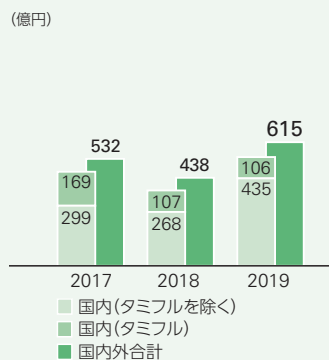


腎領域

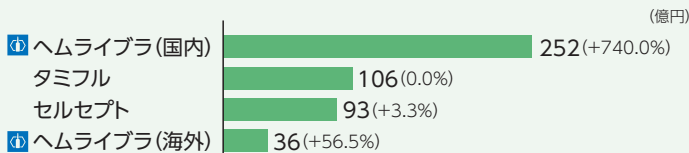
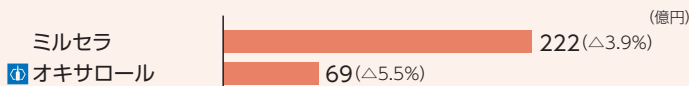
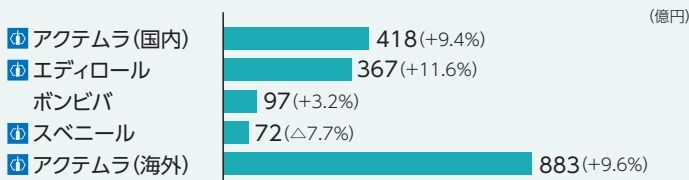
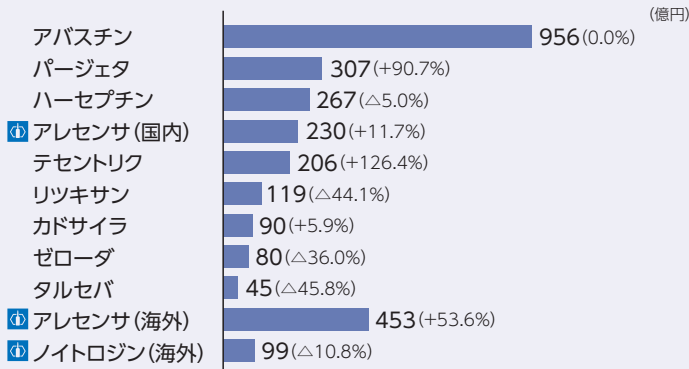
国内売上シェア2位*5



その他の領域



主要製品の売上高



開発品(適応拡大を含む)

- ④ AF802(アレセンサ)
- RG435(アバスチン)
- RG3502(カドサイラ)
- RG7446(テセントリク)
- RG7440
- RG7596
- ④ GC33
- ④ ERY974
- RG7421
- RG6264
- RG7802
- RG7828
- RG7461
- RG6058

- ④ ED-71(エディロール)
- ④ NRD101(スペニール)
- RG7845
- RG7880

- ④ EOS789

- RG1450
- RG7916
- ④ SKY59
- ④ PCO371
- RG7716
- ④ GYM329
- RG7935
- ④ SA237
- ④ AMY109
- RG7906
- RG6042
- ④ NXT007
- RG6100
- RG7314

*5 Copyright © 2020 IQVIA. 出典: 医薬品市場統計 2019年12月/MATをもとに自社分析 無断転載禁止 市場の範囲は中外製薬定義による

④ 自社創製品

新製品開発状況 (2020年1月30日現在)

開発コード(*適応拡大)	予定適応症	開発ステージ					
		第I相	第II相	第III相	申請中	承認	承認/申請時期[申請予定年]
がん領域							
RG6268	固形がん [NTRK 融合遺伝子陽性] 非小細胞肺癌					●	2019/6
RG7446*	小細胞肺癌				●		2019/3
	乳がん					●	2019/8
	非小細胞肺癌(アジュバント)					●	2019/9
	非小細胞肺癌(ネオアジュバント)			●			[2022~]
	尿路上皮がん						[2021]
	筋層浸潤尿路上皮がん(アジュバント)						[2020]
	腎細胞がん						[2020]
	腎細胞がん(アジュバント)						[2020]
	早期乳がん						[2022~]
	卵巣がん						[2021]
	肝細胞がん						[2020]
	肝細胞がん(アジュバント)			●			[2022~]
	頭頸部がん(維持療法)						[2022~]
RG3502*	乳がん(アジュバント)				●		2019/8
RG435*	腎細胞がん(RG7446との併用)						[2020]
	肝細胞がん(RG7446との併用)						[2020]
	肝細胞がん(アジュバント/RG7446との併用)			●			[2022~]
	小細胞肺癌(RG7446との併用)			●			[2022~]
RG7440	前立腺がん						[2021]
	乳がん						[2020]
RG7596	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫						[2020]
RG6264	乳がん(配合剤、皮下注)						[2021]
AF802 (RG7853)*	非小細胞肺癌(アジュバント)						[2022~]
GC33	肝細胞がん						
ERY974	固形がん						
RG7421	固形がん						
RG7802	固形がん						
RG7828	血液がん						
RG7461	固形がん						
RG6058	固形がん						
骨・関節領域							
ED-71	骨粗鬆症					(中国)	2018/2
NRD101	変形性膝関節症/肩関節周囲炎					(中国)	[2020]
腎領域							
EOS789	高リン血症						
自己免疫疾患領域							
RG7845	関節リウマチ						
RG7880	炎症性腸疾患						
神経疾患領域							
SA237 (RG6168)	視神経脊髄炎スペクトラム障害					●	2019/8(米国)、2019/8(欧州)、2019/11(国内)
RG1450	アルツハイマー病						[2022~]
RG6042	ハンチントン病					●	[2022~]
RG7916	脊髄性筋萎縮症					(II/III)	[2020]
RG7935	パーキンソン病						
GYM329 (RG6237)	神経筋疾患						
RG7906	精神疾患						
RG6100	アルツハイマー病						
RG7314	自閉スペクトラム症						
その他の領域							
ACE910 (RG6013)	血友病A(インヒビター非保有)					●	2019/3(欧州)
						●	2019/10(台湾)
RG7716	糖尿病黄斑浮腫						[2021]
	滲出型加齢黄斑変性					●	[2022~]
SKY59 (RG6107)	発作性夜間ヘモグロビン尿症					(I/II)	
NXT007	血友病A					(I/II)	
PCO371	副甲状腺機能低下症						
AMY109	子宮内膜症						

●○●○●○●○ 2019年以降進展が見られたもの

注：各相の臨床試験は、原則として投与の開始をもって試験開始としています。

一般名 / 製品名	オリジン (共同開発)	作用機序など
エヌトレクチニブ / ロズリートレク	ロシュ / Nerviano Medical Sciences	ROS1/TRK阻害剤 (経口剤)
アテゾリズマブ / テセントリク	ロシュ	改変型抗PD-L1モノクローナル抗体 (注射剤)
トラスツズマブ エムタンシン / カドサイラ	ロシュ	抗HER2抗体チューブリン重合阻害剤複合体 (注射剤)
ベバシズマブ / アバスタ	ロシュ	抗VEGF (血管内皮増殖因子) ヒト化モノクローナル抗体 (注射剤)
イパタセルチブ塩酸塩 / 製品名未定	ロシュ / Array BioPharma	AKT阻害剤 (経口剤)
ボラツズマブ ベドチン / 製品名未定	ロシュ	抗CD79b抗体薬物複合体 (注射剤)
トラスツズマブ、ペルツズマブ / ハーセプチン、パージェタ	ロシュ	抗HER2ヒト化モノクローナル抗体 / HER2二量体化阻害ヒト化モノクローナル抗体 (注射剤)
アレクチニブ塩酸塩 / アレセンサ	自社 (ロシュ)	ALK阻害剤 (経口剤)
codrituzumab / 製品名未定	自社	抗グリピカン3ヒト化モノクローナル抗体 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	自社	抗グリピカン3/CD3バイスペシフィック抗体 (注射剤)
コピメチニブ fumarate / 製品名未定	ロシュ / Exelixis	MEK阻害剤 (経口剤)
cibisatamab / 製品名未定	ロシュ	抗CEA/CD3バイスペシフィック抗体 (注射剤)
mosunetuzumab / 製品名未定	ロシュ	抗CD20/CD3バイスペシフィック抗体 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	ロシュ	ヒト化抗FAP 抗体改変IL-2 融合蛋白 (注射剤)
tiragolumab / 製品名未定	ロシュ	抗TIGIT ヒトモノクローナル抗体 (注射剤)
エルデカルシトール / エディオール	自社	活性型ビタミンD ₃ 誘導体 (経口剤)
精製ヒアルロン酸ナトリウム / スベニール	自社	ヒアルロン酸ナトリウム製剤 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	自社	— (経口剤)
fenebrutinib / 製品名未定	ロシュ	BTK阻害剤 (経口剤)
一般名未定 / 製品名未定	ロシュ	ヒトIL-22融合蛋白 (注射剤)
サトラリズマブ / 製品名未定	自社 (ロシュ)	抗IL-6レセプターリサイクリング抗体 (注射剤)
ガンテネルマブ / 製品名未定	ロシュ / MorphoSys	抗アミロイドベータヒトモノクローナル抗体 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	ロシュ / Ionis Pharmaceuticals	HTT mRNAに対するアンチセンスオリゴヌクレオチド (注射剤)
リスジプラム / 製品名未定	ロシュ / PTC Therapeutics	SMN2 スプライシング修飾剤 (経口剤)
prasinezumab / 製品名未定	ロシュ / Prothena	抗α-シヌクレインモノクローナル抗体 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	自社 (ロシュ)	抗潜在型ミオスタチンスーパービング抗体 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	ロシュ	— (経口剤)
semorinemab / 製品名未定	ロシュ / AC Immune	抗タウヒト化モノクローナル抗体 (注射剤)
balovaptan / 製品名未定	ロシュ	パンプレシン 1a 受容体アンタゴニスト (経口)
エミシズマブ / ヘムライブラ	自社 (ロシュ)	抗血液凝固第 IXa/X 因子バイスペシフィック抗体 (注射剤)
faricimab / 製品名未定	ロシュ	抗VEGF/Ang2 バイスペシフィック抗体 (注射剤)
crovalimab / 製品名未定	自社 (ロシュ)	抗C5リサイクリング抗体 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	自社	抗血液凝固第 IXa/X 因子バイスペシフィック抗体 (注射剤)
一般名未定 / 製品名未定	自社	PTH1 受容体アゴニスト (経口剤)
一般名未定 / 製品名未定	自社	— (注射剤)